

令和3年度(2021年) 《第11号》

貞香会 会報



2021 TEIKOKAI Annual Report

素堂先生の印



会長 赤平 泰処

二〇二二年、令和四年、壬寅の年を迎えました。貞香会は創立百年という記念すべき年に当たります。何となく晴れやかな気持ちになり一層書作に頑張つて、会員の皆様と共に、書壇の一翼を担う新たな一歩を踏み出したいと強く思っています。よろしく願います。昨年は貞香会総合書展、第五十五回貞香書展、皆様のご協力により開催することができ本当に良かったと安堵しています。

貞香会略年表には一九二三年(大正十二年二月)貞香書道会創立、月謝五錢、九月一日大震災に遭い、会員四散、一時休会、素堂病んで入院(十三年二月退院)とあり。大変なスタートだったことがわかります。

コロナ禍、生活様式も変わり、自粛、巣籠りなど、書作にはいい環境だとも言いますが、発表の場、出逢いがなくなったのは悲しい限りです。この機会にと素堂先生の資料整理をしていたら貴重な発見がありましたので紹介します。『印の話』の原稿です。

これは素堂先生の使用している印が三百顆になった記念に昭和十九年二月二十五日に著作したものです。内容は印の刻者、印材、印文などの由来をまとめたもので約六万九千字ほどあります。以下抜粋 (文責・泰処)



①貞香書廬主人



②静索高情

新聞静邨(二八八九―一九四五)刻・寿山石(赤い微塵のようなものを沢山ふくむ)

①「貞香書廬主人」であるが、この貞香という家の名の由来はよく人にも訊かれるものであり、又自分の所用の印の中でも最もこの字を用いたものが多い。でよく人からお宅の名前の貞香書屋、書道会も貞香書道会というのは、どういう出典があるのですか、又はどういう意味ですかという様なことを年がら年中訊かれる。これは亡母のおくり名で、自分九歳の時になくなった母は実に子供を愛し、又よく勉強を督励してくれた。おかげで今日どうにか斯うして暮して居るので、何も報ゆることの出来ない切ない気持がせめて母の名でも呼びつづけて暮してゆきたいと思つて、この貞香の二字を毎日使う硯の蓋に彫り、家の名も貞香を冠して、貞香廬、貞香山房、貞香軒、貞香書屋などと云い、筆にも貞香の名を彫りつけて、自分はもとより親しいまわりの人々にも何かにつけて母の名の字を呼んで貰えば多少でも功德になるかと思つて居るのである。なんとなく優しい感じのする名だねなんていわれるのも、斯ういうわけの名なのだから尤も千万なのである。……略……

引首印の②「静索高情」という字、これも何か古典があるんですか、という質問を受けるのであるが、これは一種の洒落と理想をまぜたもので他愛もない言葉である。苟も筆を執るとあれば静かに高雅な心操を索めてそれを紙上に表現すべきだという自戒と理想との意味と、書齋は、自分等にとつては即ち制作工場だというわけで、これを棒読みすれば相似ているように考えたまでのものにしか過ぎない。

いま自宅の玄関に同じく新聞静邨氏作るところの此の木額が懸つて居るが、此の方は、清索高情と刻んである。氏がうっかりと間違えたのであるが、大分骨折つて作つて頂いたので、彫り直しも御厄介ならんと、清く高情を索むる。考え様によつては人を迎える玄関向きであると思つて懸けてあるのである。

先生の書齋を訪ね、お稽古をして頂き、最後になると玄関に立たれて「清索高情」の額をチラリと見ながら笑顔で見送られたことが何度かあった。石神井の駅まで、セイサクコウジョウ、セイサクコウジョウと繰り返し唱えて帰途についたことを思い出した。

創立百年記念貞香書展に向けて



理事長 光谷 素仙

昨年の会報に新型コロナウイルス感染について記載したが、「書活動」に現在も大きな影響を与えており、コロナを避けて語るわけにはいかない。コロナ禍の中、各書道団体は、会員相互の結束を更に強める努力を要するし、対外的にも他の書道団体との交流・親睦を更に深めていかなければならない。

新型コロナウイルス感染症は二年近く経過した今、現在（二〇二一年九月末）デルタ株感染により第五波の猛威を放ち、新規感染者が減少しピークアウトが見えたとは言え病床逼迫状態にあり、デルタ株の他、イータ株、ガンマ株、ミュー株も報告されている。私が勤務する病院でもコロナ患者の病床が増床され、発熱外来患者も依然として多く、PCR検査陽性率の高さは医療逼迫の一つを物語っている。ただ九月中旬以降は人流が増加しているにもかかわらず、何故か真の原因が特定されていないが、新規感染者数が減少している。

ウイルス感染により生活様式が大きく変わり、社会が変化していく中で、「人の心を動かし生きる力をよみがえらせてくれる」書・芸術も今後どのように対応していくか、個人も書団体も変化に対する対応を、これ

からも真剣に充分議論していくことが重要だと思う。

書道公募展は今後も中止あるいは延期を余儀なくされるかもしれないが、何らかの対策を考え書道家の強い意欲、意気込みを示さなければならず、書作品の発表の場を消してはならない。

さて来年は、「貞香会創立百年記念 第五十六回貞香書展」の開催を予定しています。コロナ禍の現在、来年の状況は不明ですが、通常の書展の担当係に加えて、記念展の役割分担を決め、準備にかかっています。

① 中村素堂先生特別展示係

② 記念出版係・年譜係・図録係

③ 記念品係

④ 祝賀会係

それぞれの係に理事を主とし、評議員・審査会員を加えて構成し活動中で、十分な準備を重ねて記念展を迎えたいと思います。

記念展の企画の一つとして、顧問・参与・参事・会長・理事長による大作（最大八尺×八尺）のコナーも考えており、また会員皆さまの全身全霊をかけて魅力的な作品の制作を期待しています。

貞香会の役員をはじめ、貞香会の皆さますべての総力を挙げて、会の底力を発揮しようではありませんか。皆さまのご協力、ご支援をよろしくお願い申し上げます。

令和三(二〇二二)年度 貞香会総会報告

令和三年度定期総会は、一月二十日(水)午後三時から、東京都美術館講堂において開催された。

司会は鈴木蓮徑理事により進められ、開会のことばを光谷素仙理事長が行い、赤平泰処会長が挨拶をされた。

「他の書道会が開催を危ぶむ中、今回皆さんの協力で、総合書展を開催できたことを改めてうれしく感じます。皆さんの作品に出会えて、本当によかった。書の力を信じたい。来年は貞香会創立百年を迎える。会員の皆さんとの強い絆を大切にして進めたい。大変な時期に重なるが、続けていこうという気持ちが大変。中村素堂先生は、辛丑(一九〇一)の年にお生まれになり、今年生誕百二十年の年になる。素堂先生が培われた書の伝統とその思いを続けていこう。貞香会の将来を決める大切な総会の議題について、ご審議をお願いしたい。」との旨を述べられた。

次に、司会より委任状確認の報告があり、会員数二二八名の内、総会出席者十六名、委任状提出者一四二名、合計一五八名になり、総会成立と報告があった。議長には今井泰篁理事が立候補し、承認され議事に入った。

まず、第一号議案の令和二(二〇二〇)年度事業報告が根本泰邸事務局長より、第二号議案の令和二(二〇二〇)年度決算報告書が高橋珠翠理事より報告され、コロナ禍のため杉戸泰岳・長尾泰邨両監事は、書面にて適正な監査を行った旨を報告し、会計決算書が一括承認された。

次に、第三号議案の会則改正及び第四号議案の令和三(二〇二二)・令和四(二〇二二)年度貞香会役員改選案、続いて第五号議案の令和三(二〇二二)年度事業計画案が根本事務局長より説明され、一括承認された。

最後に、第六号議案の令和三(二〇二二)年度会計予算案が高橋理事より提案され、一括承認された。

その他、根本事務局長より、二〇二二年度より五年間の国立新美術館借館についての報告と、来年度の貞香会創立百年記念展開催に向けての説明があった。議事は以上となり、今井泰篁議長がすべて承認され滞りなく審議が終了したことを宣した。

最後に、光谷理事長が閉会のことばで締めくくり、総会が無事終了した。

【二〇二二・二〇二二年度役員名】

〔顧問〕	荒木大樹	中村素岳	中村青藍	
〔参与〕	大野宜白	☆奥山泰嶺	後藤鶴台	中谷春徑
	晝間欽堂	松本宜響	室生大韻	八木舜堂
	若井香樹			
〔参事〕	柏木南城	加茂泰玄	中村大如	中村東泉
	平林大舒	二木秀蔭	山根紅樹	
〔会長〕	赤平泰処			
〔理事長〕	光谷素仙			
〔副理事長〕	坪内雪山	☆根本泰邸		
〔事務局長〕	根本泰邸			
〔理事〕	飯野彩心	今井泰篁	☆海野蒼秀	金子正信
	後上菁華	鈴木蓮徑	高木素近	高橋珠翠
	永井静軒	中村香柯	☆濱瀬碧水	半田桃香
	三浦看山			
〔監事〕	☆飯野柳袖	長尾泰邨		
〔評議員〕	秋田谷岱空	石原翠山	加地香泉	

☆新任

錬成会

令和三年二月十三日(土)、十四日(日)の両日、浦和の鷺毛堂錬成会場にて、毎日書道展・貞香書展に向けた日帰り錬成会が開催された。昨年はコロナウイルス感染拡大防止のため中止を余儀なくされたが、今年は感染対策を取りながら、無事開催することができた。

初日朝早くから、高橋珠翠理事、鈴木蓮徑理事が準備を行ない、開始時間になると参加者が次々と集まり、百畳敷きの会場が埋まっていった。講師の赤平泰処会長、根本泰邱事務局長が到着し、本格的にスタート。赤平先生は、お昼まで参加者のお手本書きに追われ、その都度作品作りについて、丁寧にご指導くださった。こうした貴重なアドバイスを仲間同士で聞くことは、作品制作に大いに役立ち、互いに刺激となった。午後には光谷素仙理事長もお見えになり、先生方による作品講評や一画一画丁寧な添削が時間になるまで続いた。

二日目も開場前から参加者が集まり、自主的に練習が始まった。二日間とも参加する方もいて、熱意が伝わってきた。講師の中村素岳顧問も早々にお越しくださり、お一人ずつ丁寧に作品講評をされ、お手本書きや添削を何度もしていただいた。

昨年からのコロナ禍で、また第三波の感染状況と言われているなか開催を憂慮されたが、その心配を吹き飛ばすほどの参加者の意欲と熱意を感じた錬成会で、大変有意義であった。またこのような社会状況のなかで、無事に錬成会を開催できたのは、ご指導いただいた先生方をはじめ、朝早くからご準備くださった理事の先生方と感染防止対策にご協力いただき参加された会員の皆さんのおかげと、心より感謝すると共に、書への情熱を決して絶やさぬよう、次回はより多くの会員の皆さんと参加できる日を心待ちにしています。



2日目の集合写真



初日の集合写真



中村素岳先生によるお手本書き



赤平泰処先生によるお手本書き

'21 貞香会総合書展

1月21日より26日まで、東京都美術館において'21貞香会総合書展が開かれた。出品は第一部役員展122点、第二部書範展師範部11点、一般部117点、教育部248点、半紙部212点の総数710点。今年はコロナ禍の影響で授賞式や席上揮毫などのイベントが中止になるなど、異例の展覧会となったが、感染防止の工夫をこらすなど配慮のもと開催となった。

今夏には昨年中止となった第55回貞香書展（国立新美術館）が予定されており、更なる盛り上がり期待される。

'21
貞香会
総合書展
会員展・書範展
2021.1.20(水)～26(火)
開催時間 9:30～17:30(入場は17:00まで)
※最終日は15:00まで(入場は14:30まで)
ご高覧頂けると幸いです。
(入場無料)

会場：東京都美術館 ロビー階第1展示室
〒110 0007 東京都台東区上野公園8-36
電話 03 3829 6921 (代表)

主催：貞香会
会長 赤平泰範 理事長 光谷素仙

後援：毎日新聞社 (一財)毎日書道会 (公社)全日本書道連盟

時節柄、本展は感染予防対策を施し、皆様安心して観覧していただける環境を整えて開催いたします。会場内では感染症対策にご協力をお願いします。



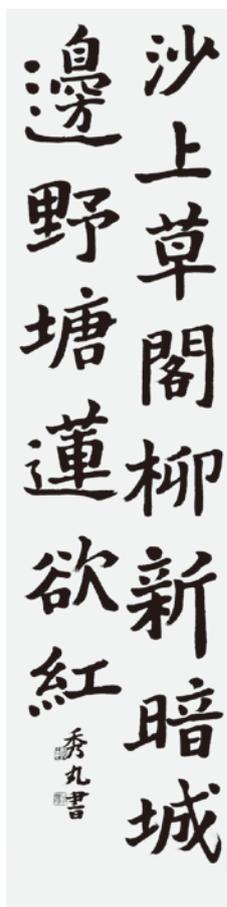
会場風景



半紙部作品

'21 貞香会総合書展 書範展 一般部 (優秀作品)

貞香会奨励賞 大河内秀丸



貞香会奨励賞 星野玲香



貞香会奨励賞 奈良田圭亮



21 貞香会総合書展 書範展 一般部 (優秀作品)

書範社賞 芳田晏奈

桂楫中流望空波有畔
 昭林開揚子
 驛公在潤為城海盡
 送昔勃已官朝
 一坐更吹松葉下
 漸濕度秋新
 晏奈

書範社賞 長畑裕子

昔聞洞庭水之岳陽樓
 吳楚東南
 拆乾坤日夜浮
 龍吟舌
 字者病有
 紅巾伐馬關
 山小憑軒涕泗流
 裕子

書範社賞 奈良田有亮

重親致歡豔景完
 易世載德不隕
 其名及其從政
 清擬夷齊
 真慕史
 魚庭郡右職
 上計掾史
 奈良田有亮

專心社賞 渡邊陽奈

仙字矣如存
 齊魯青未了
 蓮花鍾神秀
 陰陽書自晴
 陽自宵生
 重雲法智入
 怖了
 專會當
 凌絕頂
 一覽衆山小
 陽奈

專心社賞 鶴見侑樹

息討無敵
 於然思
 以有淇
 射東南
 存後速
 鮑泰
 軍平
 漢書
 長松
 江晉
 暮雲
 何時
 一尊
 酒重
 與細
 倫文
 鶴見

專心社賞 藤原優子

遠上寒山石徑斜
 白雲生
 處有人家
 停車坐愛
 楓林晚
 霜葉紅
 於二月
 花
 優子

21 貞香会総合書展 受賞者

師範部

貞香会会長賞

清水 秀峰
田村 永春

宮村佐江子
吉田 幸代
奥備 愛

内山 富美
本宮 俊子
佐々木 翠

山中 智子
星 唯菜
中島 澄香

早川 美紗
渡邊 智香
田上 愛瑠

齋藤 万純
大塚可南子
伊澤 心

古作 愛子
村上 歩美
森 陽希

福田 白雲
澤野いろは
磯部美乃里

永井 耕静
大庭 成暁
永吉 美琴

永井 耕静
大庭 成暁
永吉 美琴

杉田 優子

長瀬 亮一

牛村ひろみ

齋藤 節子

片桐 美心

長 姫妹有

近藤 美南

飯島 悠翔

桑原 廣雅

荒木 理

小早志菜南

雜賀 誠芳

市村 星華

吉岡 紀子

宮川万理子

谷田貝美桜

関 斗真

荒木 希

宮崎 蒼空

安島由莉奈

境田 羽希

塚本 真浩

大崎 素風

準特選

ロゼンフェルト

飯島 章子

神戸 沙也

西原 佳穂

高橋亜羽波

清水 滢音

池田さくら

徳武 悠樹

野上 遥希

邊見 順子

曾根 昌子

高橋英美子

山口美津子

海老原耶々

寺田 姫菜

齋藤 彩乃

齋藤 由弥

新井 遙斗

古口 拓実

外山 蒼

山本 恵翠

大村 良子

仲井 月影

山口美津子

鈴木 伶菜

寺田 梢

大輪 美釉

石間 梨聖

竹野 美琴

古川 大澄

谷藤 蓮華

壺井 尚子

向後 翠風

寺田 優己

久米田 芽

村田 琉磨

増田 小夏

太田友妃代

横山 心春

荻澤瑠々花

小川 愛結

安島衣緒菜

早乙女直美

岡 聖紅

山口 和彦

宇敷 優花

泉田 絢音

神藤 真人

森戸 七海

原 淳太

伊澤 誠優

大嶋 零音

間宮 爽介

一般部

貞香会奨励賞

大河内秀丸

小滝 洋一

鈴木 翠鴻

根本 悠彩

石井佳奈芽

関口 実来

下館 智也

香取つばさ

笹森 陵佑

本郷 樹

星野 玲香

大木 珠芳

栗栖 穂香

菊地 孝男

山崎 百華

浅利 紅

河野 優奈

長谷 大和

石井和香芭

坂本 諒宗

篠原 夏美

奈良田圭亮

水須 涼華

吉澤 春美

山口 佑珠

小林 華穂

照内 結子

竹内 理緒

添野 蒼介

秋元 鞠花

工藤 隼

壽々木暖久

書範社賞

萩原 柊花

本橋 千遥

高安のり子

田口 美空

春木 桃花

金田 愛蘭

松本 芽衣

住母家愛美

安倍 武蔵

菅野 舞彩

芳田 晏奈

伊藤 泉映

塩濱 花菜

新田 昭雄

川又 心晴

伊藤 太一

浅谷 珀虎

松本 仁心

山田 朔矢

利根川芽生

千葉 健斗

長畑 裕子

江波戸泉蓉

加茂田真緒

宮田 寛子

荒木 天花

中川 和美

和氣 駿祐

佐藤 凛

佐藤 初華

稲見 星空

八木橋太陽

専心社賞

浅野 照雄

目黒 進

高野 創

岩本 彩愛

青木 星夏

千葉 直輝

木内 実里

板子 奏心

伊澤 蒼空

大島 優太

渡邊 陽奈

福田香朱美

伊藤 星

佐藤 広美

清水 彩音

森田 敦也

北原菜々子

山田美咲希

佐藤 響

加藤 雪乃

境田 咲希

鶴見 侑樹

齋藤 千紘

根本 啓子

大澤 太郎

石井 遥菜

松本 千尋

菅谷 樹乃

河野 蒼生

長谷川 遥

鈴木 佑菜

八木橋朝陽

特選

黒須 蕙心

松井佳樹音

大久保優衣

鈴木 萌生

上野 心音

佐藤 樹花

向後 咲希

渡辺いぶき

片桐 和心

筒井 祐羽

山内 俊子

堀住有美子

高田 明美

武澤 朱里

井上かれん

大嶋 杏菜

江波戸実歩

葎葉 主税

山田 美海

住谷 結斗

安田 淳人

入選

田中 偉大

三上 遥

吉田 光男

高濱 夏彩

山崎 遥

齋藤 節子

宮川万理子

飯島 章子

教育部

貞香会奨励賞

谷田貝美桜

関 斗真

片桐 美心

長 姫妹有

中野 優音

川井 綾太

書範社賞

泉田 絢音

神藤 真人

森戸 七海

原 淳太

伊澤 誠優

大嶋 零音

間宮 爽介

専心社賞

山崎 百華

浅利 紅

河野 優奈

長谷 大和

石井和香芭

坂本 諒宗

篠原 夏美

特別賞

荒木 天花

青木 星夏

千葉 直輝

木内 実里

板子 奏心

伊澤 蒼空

大島 優太

特選

黒須 蕙心

松井佳樹音

大久保優衣

鈴木 萌生

上野 心音

佐藤 樹花

向後 咲希

秀作

清水 勇志

根本 心春

三上 敦大

篠原 秀美

桑原 廣雅

荒木 理

小早志菜南

佳作

八木橋朝陽

田口 蓮花

福田 唯菜

永吉 美琴

大庭 成暁

永井 耕静

永井 耕静

第62回 東方書展

会期 3月25日～31日
会場 東京都美術館

第62回 東方書展 審査報告

中村 青藍

第62回東方書展は令和3年3月25日から31日までの7日間、東京都美術館にて開催されました。昨年はコロナ禍の影響で急遽中止になりましたので、今回は二年ぶりの開催となりました。しかしコロナ禍の影響は依然として大きく、心配された出品点数は、同人307点、準同人147点、一般公募264点で、総数は前回比で169点減の719点でした。

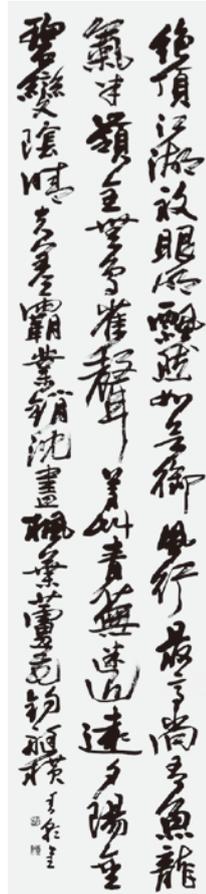
貞香会の出品点数は同人51点、準同人8点、公募第1部14点、同第4部2点で、合計は前回より14点減の75点でした。入賞作品は、準同人より同人推挙に山崎香彩さんが受賞され、一般公募作品からは特選1名、褒状3名の方々が受賞されました。誠におめでとうございます。今年の当番審査員は、「特別賞・同人推挙選考」に中村素岳先生、赤平泰処先生と小生、「公募第1部」に中村香柯先生、根本泰邱先生、「同第3部」に小生、「同第4部」に若井香樹先生が各々担当されました。

又、今年の「東方書道院選抜展」の大作に、当会から赤平泰処先生、根本泰邱先生に小生が出品しました。この「選抜展ギャラリートーク」については書範6月号に詳しく紹介していますのでこちらをご参照下さい。

最後に朗報と言いましょいか、東方の事務局長、加藤昌韻先生から東京都美術館からの要請で、第64回展から会場が現在の3室から4室になることに説明があり、審査会の終わりに満場一致でご承認されましたことご報告申し上げます。是非共次回展には、多くの方が挑戦されます事をお願い申し上げます。

第62回 東方書展 (優秀作品)

同人推挙 山崎 香彩



行草の硬い節々の表現が功を奏した。ここから自らの書をどう作っていくのが作家としての使命。次回作に期待。(泰処評)

第一部 特選 横張 瑞泉



手堅くまとめた隷書作。ゆとりと調和、深い趣、安定感ある表現を学ぶこと。

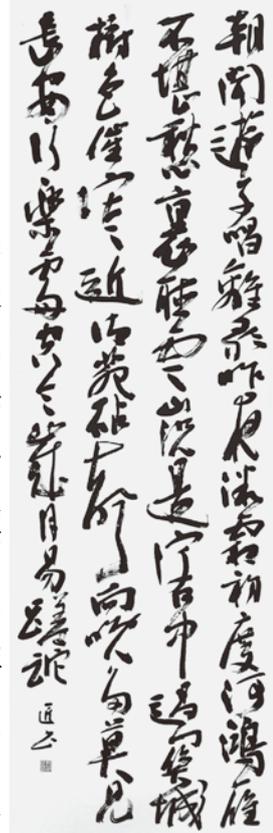
(泰処評)



受賞者の皆さん

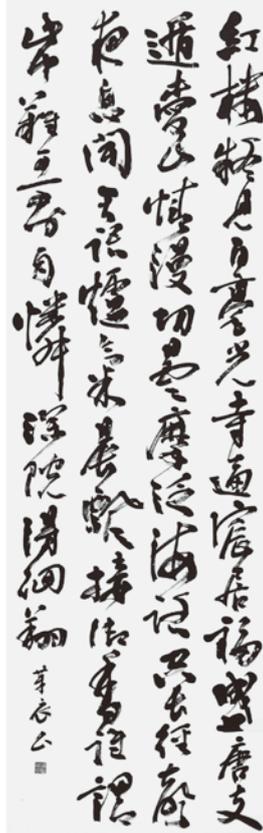
第62回 東方書展 (優秀作品)

第一部 褒状 阿部 匠



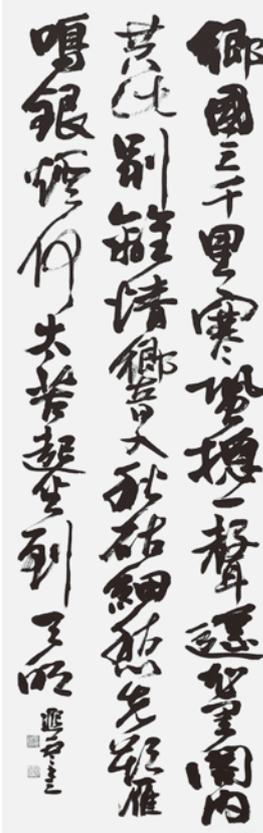
強い線は出たが、少し騒がしい。暢びのある自然な運筆・流れを心掛けること。
(泰処評)

第一部 褒状 浦野 芽衣



字形は安定したが、抑揚・潤濁を出して、全体のまとまりを充実させること。
(泰処評)

第一部 褒状 関根 熙雲

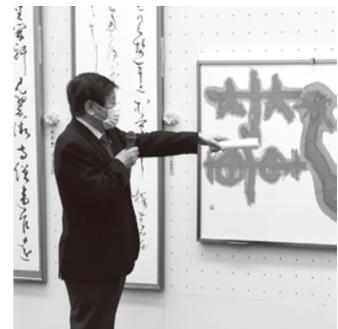


丁寧に字形を追っているが、これに運筆のリズムが必要。爽快な作で飛躍を。
(泰処評)

第62回 東方書展

《ダイジェスト》

◎「同人推挙」受賞作品解説



作品解説される赤平先生

3月25日(木) 11時より東京都美術館展示場内にて、「同人推挙」受賞作品解説が開催された。赤平泰処先生が解説を担当され、細かな講評に観覧者の方々が聴き入っていた。

◎企画展示「東方書道院選抜展」ギャラリートーク

3月27日(土) 14時30分より東京都美術館展示場内にて、「東方書道院選抜展」のギャラリートークが行われた。貞香会より、赤平泰処先生の篆書作品「暢無不適」、中村青藍先生の草書「高啓詩」・隸書「六言對句」の二作品、根本泰邸先生の行書作品「段克己句」が展示された。



赤平先生解説

作品について、それぞれ制作への熱い想いやユーモアを交えた解説をされ、満場が時の経つのを忘れて聞き入っていた。



中村先生解説



根本先生解説

◎第62回東方書展 入賞者

同人推挙

第一部 特選

褒状

山崎 香彩

横張 瑞泉

阿部 匠

浦野 芽衣

関根 熙雲

◎昇格者

第62回東方書展受賞に伴い、東方書道院の規定において、次回展より次の方が昇格になります。おめでとうございます。
(同人昇格) 山崎 香彩

第62回 東方書展 《ダイジェスト》

◎企画展示 「東方書道院選抜展」

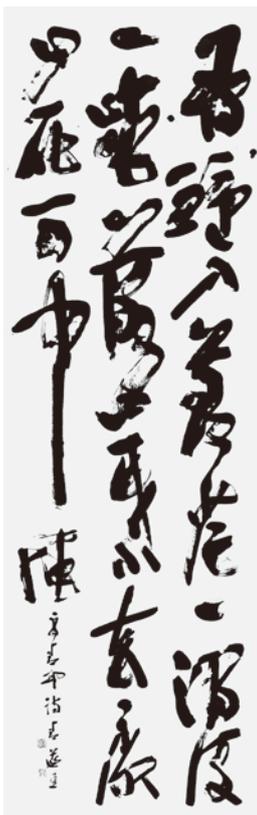
東方書道院・理事十一人と選抜された六人が大作を披露され、愛用の筆墨硯紙なども展示された。真香会では赤平泰処先生、中村青藍先生、根本泰邱先生の3名が選抜展に出品された。



暢無不適

赤平泰処先生

6尺×3尺×2



高啓詩

10尺×3尺



六言對句

中村青藍先生

10尺×2尺×2



段克己句

根本泰邱先生

8尺×2尺×4

第55回 貞香書展

会期 6月23日～7月5日
会場 国立新美術館

第55回貞香書展審査所感

光谷素仙

第55回貞香書展が令和3年6月23日(水)より7月5日(月)まで国立新美術館で開催された。コロナ禍で昨年は中止を余儀なくされ、今年も開催が危ぶまれたが、実行委員の諸先生方並びに会員の皆様のご協力により無事二年ぶりにすべてのイベントを中止して開催することが出来ました。ありがとうございます。

総出品点数は238点と前回展より33点のマイナスとなったのは非常に残念である。公募作品は91点でI部は29点と唯一4点増であったことは喜ばしいが、その他審査会員・会員・委嘱・会友の会員出品数は147点と26減であった。

審査は6月13日(日)国立新美術館地下一階審査室で午前10時30分より特別賞・審査会員推挙、推薦選考(選考委員4名)と公募部門(審査委員13名)合同審査委員会議の後、2部門それぞれに別れて審査が同時に開始した。公募部門はI部、II部とも鑑別審査を中止し午前中に審査委員の投票が行われた。午後からは投票の結果を受け、誤字チェックを含め特選、準特選、秀作の選考が行われ、同点の場合は挙手により再度の厳正な審査が行われた。

最後に再び全体会議において、2部門それぞれの選考作品が紹介され、満場一致で全ての受賞作品が決定された。公募部門I部の作品は行書が



8尺×2尺×2

左 偃 詩

光谷素仙先生

ほとんどで佳作が多かったが、文字の大小、線の剛柔、墨の潤滑、空間処理等作品構成の優れた突出した作品がなかった。

高齢化社会でもあり、それに加えてコロナ禍も関係したのか、出品点数の減少は残念でならない。日々の書活動の練習の成果を発表する場である書展に目標をもって挑戦し、見る人たちの少しでも感動を得るような魅力的な作品制作をしていただきたい。

来年は「貞香会」が創立100年を迎える。100年記念書展を盛り上げるためにも、皆様お誘い合わせてご出品のほど、よろしくお願ひ申し上げます。

第55回貞香書展(優秀作品)

特別賞・審査会員推挙 岩淵響泉



積み重ねてきた簡牘の学習が独自のものを生み、高い創造性が打ち出されていた。ここからどう発展するのか楽しみである。

(泰処評)

特別賞・審査会員推挙 近藤朗詠



丹念に個々の字がまとめられ、全体としての安定感があった。堅実さの次にくる多彩で流麗な、深い表現を願う。(泰処評)

第55回 貞香書展受賞者

特別賞・審査会員推挙 岩淵響泉 近藤朗詠
推薦・会員推挙 阿部 匠 高橋桂和 中島翠音 大芦脚雲 金子多恵子

公募1部

■特選

漢字多字数部門 上杉香莊 松本芳瑋
仮名部門 伊藤白珠

■準特選

漢字多字数部門 奥備 愛 壺井翠櫻 邊見順子 奈良田有亮 田村永春
江波戸泉蓉

■秀作

漢字多字数部門 小山真裕美 曾根信行 佐藤史帆 長瀬亮一 長田晴海
長畑裕子 村山順子 鈴木彩香 林 玉凜 岡 聖紅
塩濱花菜 武澤朱里 福田香朱美

■高校生奨励賞

漢字多字数部門 齋藤千紘 滋野綾菜 渡邊陽奈
漢字少字数部門 海老原耶々

公募2部

■特選

漢字多字数部門 中上和美 星野玲香
漢字少字数部門 宮村枝翠 田杭敬心

■準特選

漢字多字数部門 吉田幸代 市村星華 萩原柊花
漢字少字数部門 仲井月影 大澤太郎 沢田可祝 山中恵理 大河内秀丸

■秀作

漢字多字数部門 後藤久美恵 堀住有美子
漢字少字数部門 荒井良雄 押山優菜 渡辺智宝 渡邊彩華 内山富美
奈良田圭亮 小林かさね 鈴木翠鴻 浜野果保 来栖穂香
椎名祥山 高橋英美子 齋藤龍生 本宮柳絮 南城秀子

■仮名部門

吉岡紀子 山口和彦
飯名部門 伊澤 心 門脇 花 五十嵐来美

■高校生奨励賞

湯本彩愛

第55回 貞香書展

《ダイジェスト》

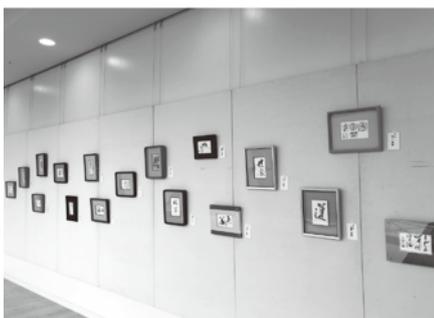
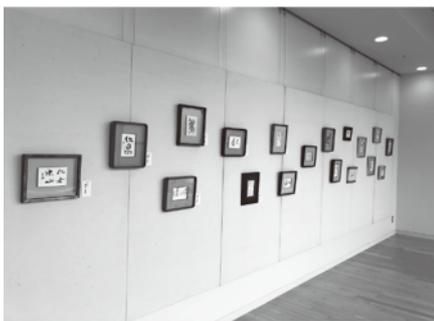
◎ 審査風景

2021年度は、新型コロナウイルス感染症対策をしながら、6月13日(日)に国立新美術館地下の審査会場にて、厳粛に行われた。



◎ 役員(会長・理事・監事) 小品展併催

展示休憩室に、貞香会役員(会長・理事・監事)の先生方による小品を展示した。それぞれ趣向を凝らした葉書作品は、来場者の眼を楽しませた。



第55回 貞香書展

《ダイジェスト》

◎ 第55回貞香書展特別展示

新型コロナウイルス感染症防止の対策を講じながらの開催となった。中央には中村素堂先生と長谷川耕心先生の作品が展示された。理事による併催の小品展も好評を博した。



70×70cm

玉兔入簾

中村素堂先生



116×49cm

遊藝

長谷川耕心先生

第55回貞香書展は、2020年に新型コロナウイルス感染拡大のため中止を余儀なくされたが、2021年に無事に開催することができ、盛会裡のうちに終了した。ただし、授賞式、席上揮毫、作品解説、懇親会の行事は、中止となった。

2022年度の第56回展は、貞香会創立百年記念展として創設者・中村素堂先生の遺墨作品を多数展示する。また、役員（顧問・参与・参事・会長・理事長）による大作展も企画している。

この他、祝賀会・講演会等の記念行事の開催と、記念筆の制作も進めております。多くの会員の皆様のご出品とご参加をお待ちしています。



第55回貞香書展会場風景

第72回 毎日書道展 《ダイジエスト》

7月8日～8月1日
国立新美術館
7月18日～24日
東京都美術館

第72回 毎日書道展 審査報告

長尾泰邨

第72回 毎日書道展の審査が、5月20日より22日迄の3日間と6月27日との2期に渡り行われました。毎日書道展は昨年が中止となり、今年も開催が危ぶまれる中での準備開始となり、感染症対策を講じての異例方式的の審査となりました。

審査方法は、全ての作品が未表装の状態での、漢字部I類当番審査員24名(1名欠席)の挙手による審査となりました。(この度の審査は、全体を通して挙手による審査のみでした。) 先ず審査初日、会友作品の審査から始まり、2日目よりU23作品・公募作品審査と進み、3日間で審査対象作品全ての審査を終えました。この3日間の審査の得票点数で、入選も入賞もおおよそ決まるといふ審査方法で、中々厳しい審査でありました。

貞香会出品数146点(会友39点・公募107点)、U23が11点、その中毎日賞1点・秀作賞2点・佳作賞6点(入賞者は書範8月号参照)でしたので、何とか例年と同程度の成績を修める事が出来ました。しかしながら審査を担当して感じて感じた事は、貞香会所属作品が中々評価されないという点です。隷書作品の評価はある程度良いのですが、行草作品、特に3行物の作品には中々点数が入らない。4行物には高得点を得る物もあつたので、来年からは一考を要するのではないかと感じました。更には、誤字脱字にはくれぐれも注意をお願いしたい。誤字脱字のチェックで、入賞候補か否かの明暗が別れました。毎日展では、誤字脱字に対する教育的対応は一切ありませんので、本当にもったいない作品が、全体的に多く見受けられました。是非注意して下さい。

最後に、今回当番審査員を初めて勤めさせて頂き、多くの役員の先生方のご協力の下で毎日書道展が成り立っている事に、改めて気付かされました。篤く御礼申し上げます。



8尺×2尺

後夜禮讃偈一節

長尾泰邨先生

第72回 毎日書道展 (優秀作品)

漢字I類

〔毎日賞〕 大塚澄心



長年築き上げてきたものが見事に開花した。高い技術が安定し、自然な流れと明るさが評価された。(泰処評)

◎表彰式

日時…2021年7月18日(日)

会場…ザ・プリンスパークタワー東京



朝比奈毎日書道会理事長より授与

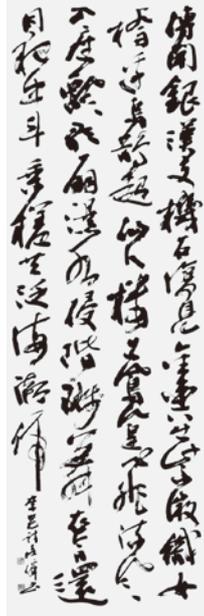


毎日賞受賞・大塚澄心さん(向かって左)と赤平会長

第72回 毎日書道展 (優秀作品)

■漢字I類

〔秀作賞〕 上野 泰 僊



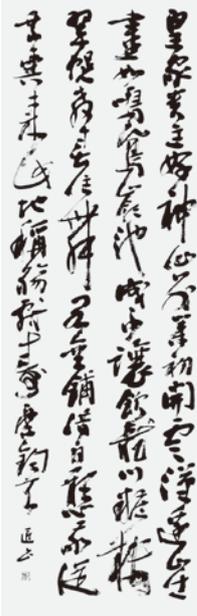
線、字形への追及を怠ることなく、書き込むことが一層の飛躍に繋がる。
(泰処評)

〔秀作賞〕 高木 素 近



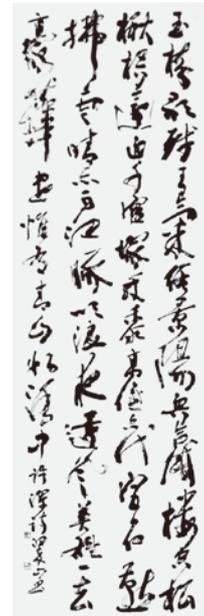
運筆の均質感が出て良くまとまる。軽重、線の趣を出し、深いものを。
(泰処評)

〔佳作賞〕 阿部 匠



全体として統一感が不足した。落ち着きのあるものを加味して抑揚を出すように。
(泰処評)

〔佳作賞〕 石原 翠 山



良くまとまったが、点画、筆法への配慮に欠けた。継続した勉強を。
(泰処評)

〔佳作賞〕 佐藤 泰 石



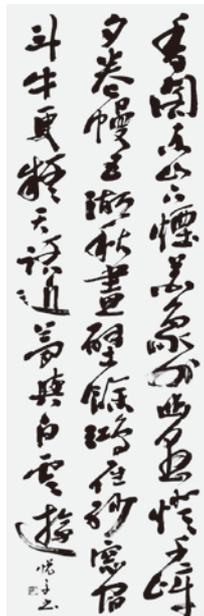
大らかに仕上げた。粘り強さが安定感を生んだ。ここからの奮起を願う。
(泰処評)

〔佳作賞〕 二木 秀 蔭



運筆と字形の変化が合致。多くの人の賛同が得られる個の世界に期待。
(泰処評)

〔佳作賞〕 峯岸 悦 子



旺盛で意欲的なものが出た。安定感と運筆法を学んで目標を高く。
(泰処評)

■漢字II類

〔佳作賞〕 亀和 田 郁 芳



徹底した書風へのこだわりが効果的だった。もっと緻密で大胆に、幅広い学習を。
(泰処評)

◎昇格者

第72回毎日書道展受賞および毎日書道会の規定において、次の方が昇格されました。
おめでとございます。

〔審査会員〕 坪内 雪山 川崎 天瑞

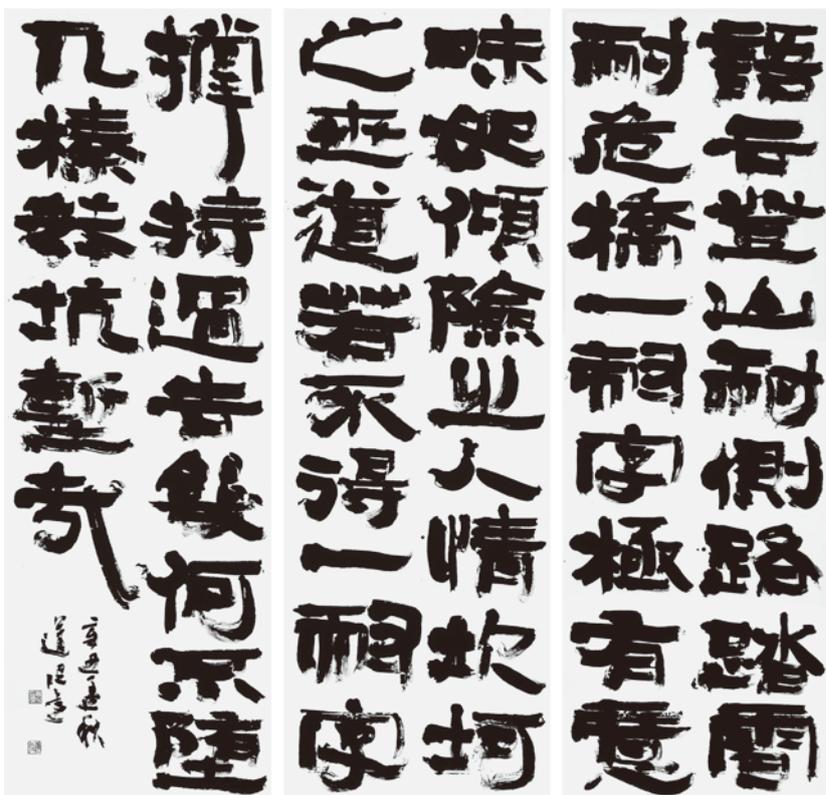
〔会 員〕 大塚 澄心 川嶋 芳岳

〔会 友〕 酒井 芳華 大橋 協司
渡辺 萌苑

第72回 毎日書道展 《ダイジェスト》

東京2020大会応援企画「現代日本の書選抜展示」

この展覧会は、七月八日(木)～八月一日(日) 国立新美術館にて開催され、毎日書道展審査会員の各部門から推薦された次代を担う新鋭書家30人が、オリンピック・パラリンピックをテーマに大作に挑んだ。貞香会より、理事・事務局次長の鈴木蓮徑先生が代表作家として出品され、好評を博した。



葉根譚より

鈴木蓮徑先生

272×91cm×3

第72回 毎日書道展 入賞・入選者

【漢字部入賞者】

毎日賞 大塚澄心
秀作賞 上野泰僊 高木素近
佳作賞 阿部 匠 石原翠山 佐藤泰石 二木秀蔭 峯岸悦子 亀和田郁芳

【出品者】

参 与 中村素岳
審査会員 赤平泰処 荒木大樹 鈴木蓮徑 高橋珠翠 中村香柯 中村青藍
長尾泰邨 根本泰邱 晝間欽堂 松本宜響 光谷素仙

会 員 秋田谷岱空 飯野彩心 飯野柳袖 五野雪香 今井泰篁
海野蒼秀 奥山泰嶺 加地香泉 加茂泰玄 川崎天瑞 川島栖園
後上菁華 津田貞巖 坪内雪山 中村汀華 中村東泉 半田桃香
三浦看山 室井汀翠 山根紅樹 若井香樹

会友I類 市川賀雪 岩崎芳穂 海野杏徑 江原覺堂 海老原綵翎 大石碧堂
大島翠玲 小澤茜逕 川嶋芳岳 倉石芳園 酒井芳華 篠原翠峰
下川翠雨 鈴木芳草 鈴木玲香 関口恵子 樋口泰仙 高橋柳瑛
武内陽華 中田翠苑 永井静軒 浜瀬碧水 樋口泰仙 平澤大廣
細田香瑤 光田秀穂 矢口昌華 横張瑞泉 渡辺蒼秀 渡辺蘇心

会友II類 清水天悠 和田芳華
会友篆刻 大塚協司
会友公募 大塚澄心 石原翠山 上野泰僊 小澤茜逕 中田翠苑 平澤大廣
矢口昌華

【入選】

一般I類 青木香露 浅野照雄 池ヶ谷豊馨 岩渕響泉 上坂木蘭 浦野芽衣
江藤静蘭 岡 聖紅 金子多恵子 北井杏怜 北村亭弘 草間篁山
小山綾香 近藤朗詠 塩野洋子 清水智子 関根熙雲 田口和美
塚山清峰 壺井翠櫻 富田 希 中島翠音 中東敬子 長尾貫清
長瀬亮一 長畑裕子 保坂登志 福田麻子 邊見順子 松下彩虹
村山順子 森 梅蓉 山内俊子 山崎香彩 湯川桃彩 吉田幸代
渡辺萌苑

一般II類 北村亭弘 奥備愛 柿沼陽和 滋野綾菜 渡邊陽奈
U 23 大塚那津子

掲載散歩

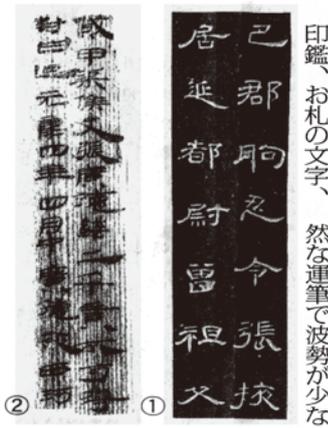
2021年度、毎日新聞に掲載された記事をご紹介します。

上達への一歩 赤平泰処

あかひら・たいしよ 北区在住/毎日書道会理事/貞香会会長/浄土宗芸術協会副理事長/大正天名堂教授/西蓮会主宰

篆隸の中に美の基準

漢字の書体には、篆・隸・楷・行・草の5体がある。楷行草は、学習することが多いようだが、篆隸になると少し専門的になり、書法の難しさもあって、実際に筆を持って書くことは多くないようだ。しかし、篆隸の中にこそ漢字造形の基本が集約され、美の基準がある。楷行草もここから生まれた。篆隸への理解が、美しい文字を書くことの大切な条件である。



① ②

く波濤のない古隸がある。従来、石に刻された正當な八分の書が学習の基本で、筆遣いが難しくなじめなかったが、近年出土した木簡などの資料により、隸書学習は新たな一歩を開いた。木簡の書は、石刻の書では味わえない人間性の表現を書法にもたらし、書者の心の動きが伝わってくるもので、新しい書芸術のあり方を私たちに教えてくれた。



③ ④

上達には手習いが一番大切だ。しかし、筆を持たなくても「眼習」(眼習い)は資料④、筆者はどこでもできる。日常生活の中で出会った一文字一文字に興味を持ち、いろいろな書にチャレンジし、目を耕すことから始めてみよう。

書の世界

題字・金子龍平

第55回貞香書展(7月5日まで、東京・六本木の国立新美術館)は、創立99年という時期を迎えた今こそ絶え間ない前進を続けていきたいという意欲に満ちた雰囲気放射している。

赤平泰処さん「神力演大光 普照無際土……」▽写真 真▽荒木大樹さん「頓中頓」▽同▽中村素岳さん「高明至賢德行全誠」▽同▽の激しい渴筆などに刻まれたベテラン勢の気の注入り目にみはる。

第55回貞香書展 絶え間ない前進へ意欲



①

②

③

上達への一歩 荒木大樹

あらき・だいじゅ 江戸川区在住/毎日書道展審査委員/貞香会顧問/浄土宗書術家協会事務局長/寶徳書道会主宰

臨書から創作への試み

今から2200年以前を使って書かれたの上も前の中国・前漢期か、考えるだけで楽しみに肉筆で書かれた竹簡文字(資料①)を眺めたい。この文字は、幅5ミ、縦8ミの大きいです。竹簡全体では、幅5ミ、縦26ミで、この一本に43文字が記載されています。

文字資料としても貴重な肉筆は、このころまで見ることができません。小さな文字がどのような筆、墨で書かれたのか、984年に中国・前漢

墓の発掘で見つかった文字の「関」を見つけて、これではなんと作品にしてみたいと思いをしました。作品までの経過を紹介しましょう。まず、「太い線での表現」(資料②)です。全紙に溢れるばかりの太い線が、少し強引に運筆し、藏鋒を用い、やや濃いめの墨で薄めの和画箋紙に揮毫しました。この漢簡を土台にして、自分の表現が古典を学んでみてきた。筆は、柔らかめの羊毛で、全紙に一字で少し細めかもしれませんが、少し強引に運筆し、藏鋒を用い、やや濃いめの墨で薄めの和画箋紙に揮毫しました。この漢簡を土台にして、自分の表現が古典を学んでみてきた。

墓の発掘で見つかった文字の「関」を見つけて、これではなんと作品にしてみたいと思いをしました。作品までの経過を紹介しましょう。まず、「太い線での表現」(資料②)です。全紙に溢れるばかりの太い線が、少し強引に運筆し、藏鋒を用い、やや濃いめの墨で薄めの和画箋紙に揮毫しました。この漢簡を土台にして、自分の表現が古典を学んでみてきた。

墓の発掘で見つかった文字の「関」を見つけて、これではなんと作品にしてみたいと思いをしました。作品までの経過を紹介しましょう。まず、「太い線での表現」(資料②)です。全紙に溢れるばかりの太い線が、少し強引に運筆し、藏鋒を用い、やや濃いめの墨で薄めの和画箋紙に揮毫しました。この漢簡を土台にして、自分の表現が古典を学んでみてきた。

墓の発掘で見つかった文字の「関」を見つけて、これではなんと作品にしてみたいと思いをしました。作品までの経過を紹介しましょう。まず、「太い線での表現」(資料②)です。全紙に溢れるばかりの太い線が、少し強引に運筆し、藏鋒を用い、やや濃いめの墨で薄めの和画箋紙に揮毫しました。この漢簡を土台にして、自分の表現が古典を学んでみてきた。



簡牘名蹟選⑤湖北篇(二玄社)



1



4



3

令和3年7月18日

毎日書道

毎日書道

令和3年4月1日

伝統つなぎ風格も

貞香会総合書展

貞香会総合書展が1月20日から26日まで東京・上野の東京都美術館で開かれ、「関」、光谷素仙さん「一」の創造を掲げて創設した伝統ある書展。会長の赤平泰一、鈴木運彦さん「風起如さん」は「鶴舞千年樹」、雲湧「など。意気込みをみ理事長の中村青藍さん「萬世連筆鋭い風格ある作品が法帰一」、松本真響さん「福並んだ。



赤平さん(中央左)の作品を鑑賞する関係者

貞香書展

第55回貞香書展が6月23日から7月5日まで東京・六本木の国立新美術館で開かれた。貞香会創立99年、意欲的に取り組む作品が会場を飾った。会長、赤平泰一さんは「神力演大光 普照無際土」を強靱な筆致で制作。光谷素仙さんは「寒雲淡淡天無際 片帆落處沙鷗起」、荒木大樹さんは「頓中頓」、中村青藍さんは「金生麗水の力を発揮できるようがんばります」と赤平さん。



意欲的の作品がずらり。高い評価に和やかな表情の赤平さん(右5人目)

〈2021年度事業報告〉

■ 主な展覧会

○ 2021年度定期総会

日時…2021年1月20日（水） 15時～
会場…東京都美術館講堂

○ 21 貞香会総合書展

会期…2021年1月20日（水）～26日（火）
会場…東京都美術館
※授賞式、席上揮毫、ギャラリートーク、懇親会は中止

○ 第62回東方書展

会期…2021年3月25日（木）～31日（水）
会場…東京都美術館
☆企画展示「東方書道院選抜展」併催
赤平泰処先生・中村青藍先生・根本泰邸先生出品
作品解説…3月27日（土） 14時30分～
同人推挙・作品解説…3月25日（木） 11時～
※懇親会は中止

○ 第55回貞香書展

会期…2021年6月23日（水）～7月5日（月）
会場…国立新美術館
※授賞式、席上揮毫、ギャラリートーク、懇親会は中止

○ 第72回毎日書道展 東京展

会場…国立新美術館
会期…2021年7月8日（木）～8月1日（月）
☆東京2020大会応援企画「現代日本の書選抜展示」併催
鈴木蓮徑先生出品
会場…東京都美術館
会期…2021年7月18日（日）～24日（土）

■ 洗碑会

※東京都の緊急事態宣言発出のため中止
日時…2021年5月2日（日） 16時30分～
会場…文京区小石川3-14-6
内容…創設者中村素堂先生の記念碑『如是我聞』を洗い清める行事

■ 錬成会

日時…2021年2月13日（土）・14日（日） 9時～17時
会場…鷺毛堂錬成会場（さいたま市南区文蔵4-27-3）
内容…毎日書道展、貞香書展に向けての作品制作

■ 貞香会後援の展覧会

○ 第35回西蓮会書展

会期…2021年10月8日（金）～12日（火）
会場…銀座かねまつホール

○ 第52回墨光書展

会期…2021年10月13日（水）～17日（日）
会場…春日部市民文化会館

○ 第6回中村大如書展

会期…2021年11月5日（金）～9日（火）
会場…銀座かねまつホール

※この他、貞香会会員が活躍する展覧会の情報は、貞香会ホームページのインフォメーションにて掲載しています。詳しくは、そちらをご覧ください。

〈2022年度行事予定〉

■ 主な展覧会

○ 2022年度定期総会

日時：2022年1月21日（金） 15時～
会場：東京都美術館講堂

○ '22 貞香会総合書展

会期：2022年1月20日（木）～26日（水）
会場：東京都美術館

授賞式：後日お知らせします

懇親会：

席上揮毫：

ギャラリートーク：

新型コロナウイルス

感染拡大防止のため中止

○ 第63回東方書展

会期：2022年3月25日（金）～3月31日（木）
会場：東京都美術館

企画展示：「先人の手本展」・「選抜展」

同人推挙・作品解説：3月25日（金） 11時～

授賞式：

席上揮毫：

懇親会：

東方書道院ホームページ www.tohoshodouin.com

別に送られる出品要項をご確認ください

○ 貞香会創立100年記念 第56回貞香書展

会期：2022年6月29日（水）～7月11日（月）
会場：国立新美術館3A

特別展示：「中村素堂遺作展 貞香会100年の歩み」

祝賀会：2022年7月2日（土） 18時開宴（予定）

会場：ホテルグランドアーク半蔵門

講演会：

授賞式：

席上揮毫：

ギャラリートーク：

後日お知らせします

○ 第73回毎日書道展 東京展

会場：国立新美術館

会期：2022年7月13日（水）
～8月7日（日）

会場：東京都美術館

会期：2022年7月18日（月）
～7月25日（月）

※7月19日（火） 休館日

表彰式：7月24日（日） 13時～

ザ・プリンスパークタワー東京（予定）

※各地方展、巡回展については、毎日書道会の

ホームページをご覧ください。

毎日書道会ホームページ

<http://www.mainichishodo.org>

■ 洗碑会

日時：2022年5月2日（月）

16時～ 受付

16時30分～ 洗碑会

会場：文京区小石川・傳通院

内容：創設者 中村素堂先生の記念碑「如是我聞」

を洗い清める行事

毎年、中村素堂先生の誕生日に開催して

います。どなたでも参加できます。ぜひ、

ご参集ください。

■ 錬成会

○ 錬成会（日帰り）

日程：2022年

2月5日（土）・6日（日）

9時～17時

会場：鷺毛堂錬成会場

さいたま市南区

文蔵4-27-3

内容：毎日書道展・貞香書展に

向けての作品制作

■ 貞香会後援の展覧会

○ 第53回墨光書展

会期：2022年10月6日（木）
～10日（月）

会場：春日部市民文化会館

○ 第36回西蓮会書展

会期：2022年10月14日（金）
～18日（火）

会場：銀座かねまつホール

○ 第4回素心会書展

会期：2022年11月22日（火）
～27日（日）

会場：銀座画廊美術館8階

貞香会創立百年記念

中村素堂先生の書に対する想いをご紹介します。

素堂先生のことば

清新な努力作を以て、
既往五十餘年の歴史ある会を
背負って、全会員の底力を
展示しなければならぬ。
希わくば渾身の力を揮って…
大いに気を吐いて頂きたい。

(新都美術館に進出す『祭墨』3・昭和50年10月1日)

我が会は、
字を書くことを愛し、
美の真諦しんたいにふれてゆく、
精進、精進のグループです。

(ひとつの精進道『硯友』・昭和41年)

貞香会創立百年記念展

2022年は、中村素堂先生が貞香会を創立されて百年の記念すべき年になります。貞香会では、「貞香会創立百年記念展・第56回貞香書展」の開催にあたり、創設者・中村素堂先生を顕彰する「中村素堂特別展示」の準備を進めております。

また、顧問・参与・参事・会長・理事長の先生方による大作展、特別講演会、祝賀会も企画し、記念図録・記念筆等の制作もいたします。ぜひ会員の皆さまにはご出品をいただき、また記念事業にご参加・ご協力のほど何卒宜しくお願い申し上げます。

貞香書展に出品しましょう!!

貞香会創立百年記念祝賀会

貞香会創立百年記念祝賀会の開催を左記の通り予定しております。宴席テーブル6名程度の席数にするなど、新型コロナウイルス感染症対策を徹底し、開催の準備を進めております。記念品もご用意しております。会の皆さまと共に創立百年をお祝いしましょう。皆さまのご出席を心よりお待ちしております。

《祝賀会》

日時…2022年7月2日(土) 18時開宴(予定)

場所…ホテルグランドアーク半蔵門 富士の間

※詳細は後日お知らせいたします。

〈事務局だより〉

◇年会費について

◎2022年度の年会費は、5月13日(金)までにご納入をお願いします。

年会費	名誉会員	10,000円
	審査会員	15,000円
	(役員職・顧問・参与・参事・会長・理事・監事・評議員含む)	
	会員	12,000円
	委嘱	9,000円
	会友	4,000円

◎2021年度以前の年会費が未納の方は、お早めにお振込みをお願いします。

◇第56回貞香書展の作品締切

2022年度は、4月11日(月)～4月15日(金)までに、各表具店に作品を搬入してください。収録作成、写真撮影等により、搬入時期が早くなっております。締切厳守でお願いします。

◇住所変更について

住所・連絡先など変更がある方は、貞香会事務所までFAXまたはハガキなどの書面にてお知らせください。

◇会員の方の関係書道展について

会員の皆さまが活躍する書道展や催しものなどの情報を、貞香会事務所までお寄せください。展覧会の案内ハガキなど詳細をご郵送またはメールにて添付いただければ、貞香会ホームページのインフォメーションに掲載いたします。

◇ご意見・ご要望など

貞香会に関連する展覧会や行事などで、会員の皆さまよりご意見・ご要望などありましたら、貞香会事務所まで書面にてお寄せください。

※表紙「墨」…中村素堂先生作品「祭墨」より
【編集後記】

※二〇二二年は、会員の皆様のご協力のおかげで、一年ぶりに総合書展と貞香書展を開催することができました。貞香会会報第11号をお届けいたします。二〇二二年は、貞香会創立百年記念の年です。皆様の益々のご健筆とご健康を祈念申し上げます。
(泰邸)

※二〇二二年は、「コロナ禍」二年目でしたが、社会活動が少しずつできるようになり、東京オリンピックも無事に開催されました。これからは「嘉(よろこび)」の波に乗っていきましょう!
(彩心)

※「ショー(翔)タイム」このフレーズは、大リーグで活躍している大谷選手を紹介する時に使われています。この会報も、今年一年貞香会皆さまの活動を紹介する「ショー(書)タイム」です。ワクワクして読んでいただければ幸いです。(蒼秀)
*貞香会百歳、おめでとございます。このためたき年を皆さまとお祝いし、さらに百年続きますよう、万歳!
(茜逕)

令和三年度(二〇二二年)

会報(第十一号)

発行日 令和三年十二月三十一日(金)

編集・発行 貞香会

東京都江東区新大橋一五四一二一
根本方

電話〇三(六二八四)〇四六六

印刷・製本 富寿印刷

東京都文京区大塚三三六九
電話〇三(三九四四)一一四一

